

国立大学法人徳島大学の平成23年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

徳島大学は、高度な研究活動を基盤として「進取の気風」を育む教育と地域の目線に立った社会貢献を基軸にその社会的使命の達成を目指している。第2期中期目標期間においては、「進取の気風」を育む能動的学習とキャリア教育の推進、教育の質の向上を図り、多様な個性を尊重し高度な専門的能力を培う教育環境の構築等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「自らの就業力向上を促す単立ちプログラム」によるキャリア教育の実施、大学院における共通科目の開設や各教育部を横断した高度教養科目の導入の検討、全学方針に基づいた各部局ごとのカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーの見直し等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 女性研究者の研究支援のため、AWA サポートセンター研究支援制度を整備し、研究補助を行う研究支援員(延べ12名)を採用・配置するとともに、女性研究者の就業継続のための相談業務に従事するキャリアカウンセラーを採用・配置している。
- 女性研究者のロールモデルを提示することで男女共同参画に係る意識の啓発を促すため、女性教員(センター特任教授)が中学校に出向き中学生を対象に出前講義(参加者9名)を実施している。

【評定】 中期計画の達成に向けて**順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成23年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 附属病院においては、患者数の増、手術件数の増等により、病院収入が平成 22 年度に比べて 15 億 8,972 万円の増となっている。
- 総人件費改革を踏まえた人件費削減については、平成 18 年度からの 6 年間で 6 % 以上の削減が図られている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 情報化推進センターでは、活動状況等について点検・評価するため、学外委員、学内他部局委員で構成された「情報化評価委員会」による外部評価を実施するとともに、情報セキュリティマネジメントに関する第三者適合性評価制度である ISMS (ISO27001、情報セキュリティマネジメントシステム) 認証を取得している。
- 学長が徳島大学の使命、未来像等を語る Web 番組「学長 tv」を制作し、学長が自らの体験や学業、留学、徳島大学への思いを動画と音声で紹介することで、大学に対する親近感を高め、大学のあり方を分かり易く説明することに役立てている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 平成 22 年度に策定した「リスクマネジメント態勢構築年度計画」に基づき、想定リスク一覧を作成し、大学をとりまくリスクの評価、各階層によるリスクの認識傾向の分析、リスクに対する意識の向上を目的として、事務職員 92 名を対象としたリスク評価を実施している。

- 保健管理センターでは、特に近年教育の現場において支援の必要性が高まっている発達障害を有する学生に対して、平成 23 年度より専門カウンセラーによる週 1 回半日のサポートを開始している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 23 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学部教育では、「自らの就業力向上を促す巣立ちプログラム」に基づくキャリア教育として、前期に「キャリアプラン入門Ⅰ」、後期に「キャリアプラン入門Ⅱ」を開講し、Web 版キャリア学習ポートフォリオを活用しつつ、学生が主体的にキャリアデザインについて考え、職業的自立に必要な社会力・基礎学力を高められるような教育を行っているほか、キャリア教育の有効性を検証するとともに、授業における問題点や学生の要望を抽出し、各授業における到達目標の明確化やレポート等を通じて予習・復習を促すなど、今後の授業改善に役立てることとしている。
- 体系的で一貫性のある学位プログラムの整備、教育の内部質保証システムの確立と向上のため、各学部・学科のアドミッション・ポリシーについて、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーとの整合性を考慮し、見直しを実施するとともに、各教育部についてもアドミッション・ポリシーを策定している。
- 研究成果を海外に発信し、海外企業への技術移転等を目的として米国の民間企業内に設置した「徳島大学シリコンバレーオフィス」の本格運用を開始し、現地企業向けに糖尿病に関する研究等の新技術セミナーを開催するなど、研究シーズについて発信している。
- 厚生労働省雇用創出基金事業「地域再生のための上勝学研究及び上勝学講座プロジェクト」により、特任助教 2 名を上勝学舎に採用・配置し、中山間地域づくりのための上勝学研究、地域再生上勝型モデル構築、上勝学講座の開発・実施及びハブ型地域再生拠点づくりを推進している。
- 産学連携の支援に必要な情報（研究者情報、研究情報、ニーズ情報、企業情報等）をデータベースに登録し、学外利用者（企業、団体等）が検索機能や自動配信機能により必要な情報を収集でき、コーディネーターを介して研究者に連絡できる「産学連携マッチングシステム」を構築している。

附属病院関係

(教育・研究面)

- 医療従事者の能力向上とキャリア形成を目的に、糖尿病、脳卒中リハビリテーション看護や感染管理等の院内認定プログラムを実施し、合わせて17名が修了している。

(診療面)

- 大動脈・血管治療専門外来を設置し、血管疾患に対してステントグラフト治療、血管内治療の専門医が担当し、患者の体への負担が少ない治療を実施している。

(運営面)

- 「栄養管理室」と「食と健康増進センター」を統合して、栄養部を設置し、臨床栄養管理を実践できる人材を併任することにより、組織の充実を図っている。

Ⅲ. 東日本大震災への対応

- 附属病院による徳島県と連携した被災地への医療チームの派遣の他、水、食料等の緊急物資の送付等を行っている。
- 学生ボランティアによる支援を行うとともに、震災直後から被災地に放射線の専門家を派遣し、被災地域のスクリーニング、除染等に関する講習会、また、中学生を対象とした放射線教育、住民の精神的ストレス軽減のための懇談会等を行い、復興に向けての支援活動を継続している。
- 被災した大学の学生・教職員に対する図書館内資料の閲覧、館内資料のコピー、図書の貸出等の学習・研究支援を行うとともに、被災した学生に対し、授業料の免除等の経済的支援を行っている。